

V. 実現化へ向けて

実現へ向けて、町が行う「パートナーシップによる計画づくり」、「多様な住民参加」、「人材の育成」の3つの取り組みが必要と考えます。

1. パートナーシップによる計画づくり

水と緑の保全と育成、創造には、町民、行政、企業、農林漁業などの関係各者が、相互に尊重し、理解し、共通の目的に向けて役割を分担するなど、より良い協力関係(パートナーシップ)を築くことが大切です。

関係各者の特質を活かし、相互に力を発揮できる組み合わせを考慮した体制を築き、緑と水辺に係わる施策(プログラム型、プロジェクト型パートナーシップ)の実現を目指します。

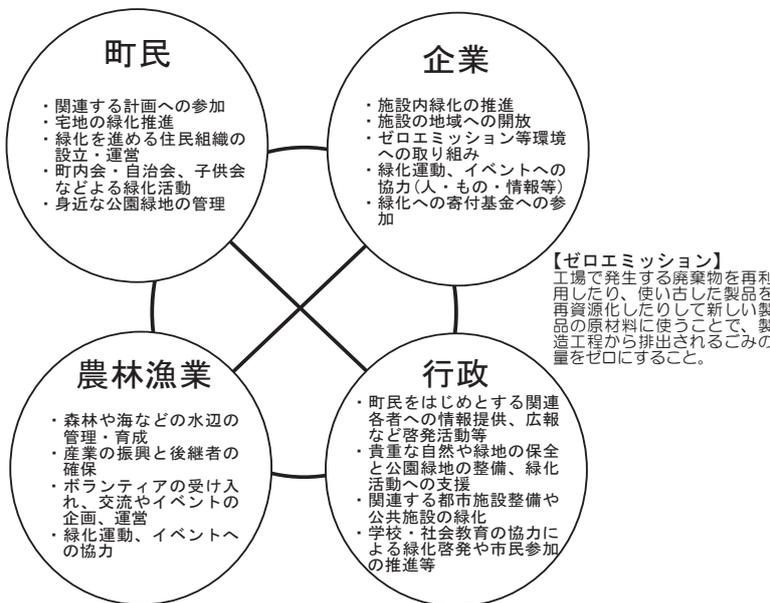
また、これらのプロセスを通して、より良いパートナーシップのあり方を研究、改善するためのシステムづくりを進めます。

step 1

関係する各者が、パートナーシップを組み、協働して取り組む体制をつくります。

★協力体制の確立

- パートナーシップを形成する条件
 - ・問題の共有化、危機意識の連帯
 - ・町民のコミュニティ意識が強く、行政と民間の信頼関係が確立
 - ・強力なリーダーシップ、中心となる人材、グループの存在



step 2

各事業など、具体的な取り組みの中で実現していくことが必要となります。この中では、計画などのプログラム型、事業などのプロジェクト型などのパートナーシップが考えられます。

★具体的な事業への展開

●プログラム型パートナーシップ

町域全体などの広い範囲を対象に、多数のメンバーが参加して、共同で長期のプログラムを策定し、これに基づいて個別の事業を実施する。

- ・総合計画
- ・都市マスタープラン
- ・緑の基本計画など

●プロジェクト型パートナーシップ

個別のプロジェクト毎に行政と民間が共同で計画を作成し、事業を進める。

- ・公園整備事業
- ・道路整備事業
- ・河川整備事業
- ・緑化事業など

step 3

体制づくり、事業展開、体制の継続性、運営管理などについての評価をし、より良いシステム化への改善策を検討します。

★評価・課題、継続性

●体制づくりへの評価・課題

パートナーシップによる体制づくりとして、関係各者の間に意識の共有化、連帯、信頼関係が築くことができたか、円滑な活動を支える組織を構築できたかなど。

●各事業毎の評価・課題

各事業毎に、住民参加や市の特性を活かしたプロジェクトが展開できたか、自然環境への配慮、環境負荷への対応などが十分に盛り込まれたか、事業費と効率化への評価など。

●継続性への評価・課題

体制の継続性が確保できたか、事業などの完成後の運営管理へのスムーズな移行、関連施設の市民など利用者の意向調査とこれに基づいた再整備の検討などのリニューアル等。

2. 多様な住民参加

多様な住民参加を図るため、水と緑に関わる様々な情報のとりまとめ、発信、関連する各種団体、組織などとの連携などにより、水と緑の計画づくり、事業展開、運営・管理への参加の道を開きます。

step 1

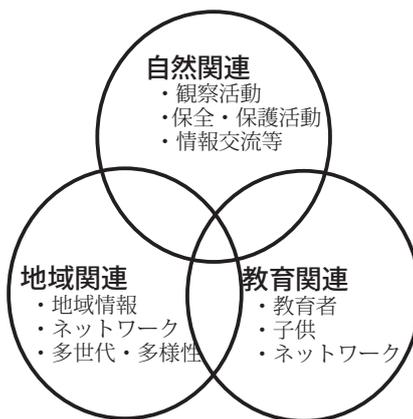
町民参加の為の情報提供、町の自然環境、水と緑の現状、緑化への取り組み、支援制度など様々な情報を町の広報、インターネット、行政機関、図書館の閲覧など町民が手軽に情報にふれられる機会を提供します。



step 2

各種団体、組織などとの連携を図るための環境をつくります。

・自然関連 (保護、交流等)
・地域関連 (自治会、町内会等)
・教育関連 (文化・スポーツ活動)
調査、交流、計画、運営、管理などへ、団体の特色を活かした参加形態を整えます。



step 3

水と緑づくり (保全、育成、創造) への実践的な参加。

- ・計画への参加
- ・事業への参加
- ・管理・運営への参加
- ・緑化活動への参加

各段階の中でも参加のプロセス、対象となる町民、参加構成など、計画や事業の内容や性格を考慮します。

公園緑地の管理・運営や緑化活動においては、町民の自主的な意思や行動を尊重します。



3. 人材の育成

水と緑を守り、育て、創造するための様々な人材の育成を図ります。

大磯の将来を支える人材となる子供たちに対して、水と緑の大切さや自然の仕組み(生態系)などを学校の環境教育、課外活動、そして緑化活動への参加の中で感じ、学び、体験できるような環境づくりを行います。また、世代間の交流を促進し、人と人を通じ、次世代に水と緑の歴史・文化、情報・技術などが伝えられるような仕組みづくりと、これらを支援する体制や制度づくりを町民と行政が一体となり行うことが重要です。

step 1

大磯の水と緑の次世代を担う子供たちの教育、学習・体験環境を整えます。自主性を活かした活動が行えるよう支援、サポート体制を作ります。

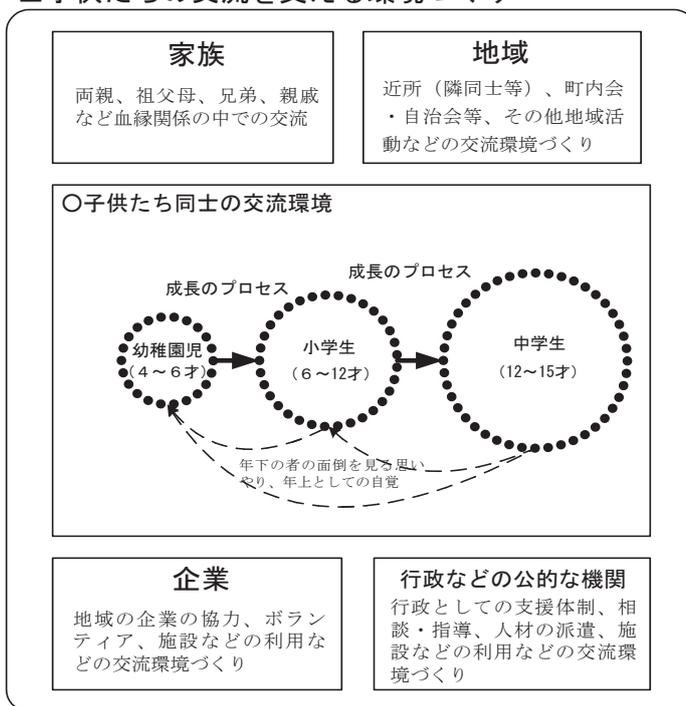
この環境を活かし、大磯から日本、世界の子供たちへ情報発信し、交流の促進を図ります。

- ・環境教育の導入
- ・課外活動の充実
- ・子ども会など地域のつながり
- ・地域外、日本、世界などの子供たちとの交流

step 2

子供と高齢者など世代間の交流の促進を図り、様々な年代の人々が交流できる環境をつくり出します。その中で、山や海などの自然について、自然を活かした遊び、古くから伝わる民話、子供の遊びを体験する中で自然の大切さや自然に即した暮らしなどを学ぶことを目指します。

■子供たちの交流を支える環境づくり



step 3

水と緑づくりの町民レベルでの専門家を養成するための制度や、先進地域での体験など、人材の育成に関わる体制や制度の整備を進めます。緑と水辺の人材づくりの入り口として、町民が気軽にボランティア活動を行えるような環境づくり、広報などによる情報提供、水と緑づくりに関わる作業、運営管理など、参加の窓口を広げます。